

防衛問題セミナー実施概要

近年、人口減少や少子高齢化が急速に進み、社会構造が大きく変化する中で、性別、年代、時間的制約の有無にかかわらず、あらゆる人が活躍できるような職場環境を整備することが求められています。防衛省・自衛隊は、意欲と能力ある女性が幅広い分野にチャレンジできる道を拓いており、多くの女性職員が安全保障に関連する様々な場面で活躍しています。

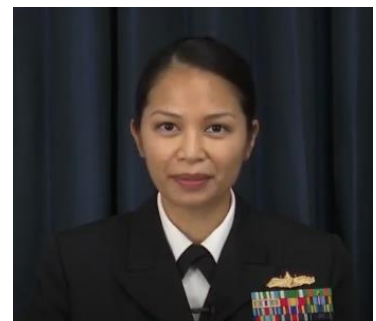
当局では、令和4年11月5日（土）に「安全保障分野で活躍する女性たち」をテーマに防衛研究所戦史研究センター主任研究官の吉田ゆかり1等空佐と第7艦隊司令部海上自衛隊自衛艦隊連絡官マリア・カトリーナ・アブレン少佐を講師に迎え、オンラインセミナーを開催しました。



吉田1等空佐（左）と増野地方調整課長（右）

第1部では、東日本大震災後の航空保安管制群松島管制隊長、統合幕僚監部運用部運用第2課災害派遣班長、航空幕僚監部広報室長など幅広い経験を持つ吉田1佐による、「自衛隊にも必要なジェンダー視点と多様性～これまでの経験を踏まえて～」と題した講演が行われ、引き続き、視聴者から事前に寄せられた質問をもとにしたインタビューが行われました。

第2部では、米第7艦隊所属で海上自衛隊自衛艦隊司令部連絡官として勤務しているアブレン少佐より、「軍務における多様性が、国、地域社会、そして自己を強化することへの考察」と題した講演が日本語で行われ、また、その後の質疑応答では、日米両国での勤務・生活経験から見た、日本や自衛隊に対する思いを伺い知ることができました。



アブレン少佐

今回のセミナーについて視聴者からは、「「多様性」「ダイバーシティ」という表現はよく耳にしますが、単に様々な人が集まっているだけでなく、その個々人が認められ、活躍し、組織や社会に貢献している状態であることだと、今回のセミナーを通じて強く感じました。」、「今回のテーマ(ジェンダー)は、生きていく上で必ず身近に感じる内容」などの感想やコメントが寄せられました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、今回も事前収録した講演等をオンライン配信し、アーカイブ配信期間を設けました。視聴者からは、「時間を気にせず、都合の良い時に視聴できたので良かった」という意見をいただきました。

今後も防衛省の諸施策や取組及び自衛隊の活動等について、より多くの国民の皆様にご理解を深めていただけるよう、様々なテーマで、開催方法を工夫して実施してまいります。